

平成25年度(2013 年度) 第3回吹田市子ども・子育て支援審議会会議録(要旨)

開催日	平成25年11月28日(木)	開催時刻	午後6時30分～8時00分
場 所	吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館 4階多目的会議室		
出席者	泉会長、峯本副会長、御前委員、田中委員、香川委員、粉川委員、上農委員、山口委員、武内委員、植田委員、松下委員、長瀬委員、長谷川委員、		
欠席者	渡邊委員、井村委員		
事務局	春藤部長、増山次長、岸参事、秋山参事、田辺所長、西村課長、山本参事、黒木参事、笹川参事、脇谷課長、杉原主幹、和泉主査、古田主査		
傍聴者	一般 19人		
案 件	<ol style="list-style-type: none"> 1 ニーズ調査について 2 地域子ども・子育て支援事業の概要について 3 次世代育成支援行動計画(後期計画)の実施状況等について 4 その他 		
泉会長	ただいまから、第3回吹田市子ども・子育て支援審議会を開催します。傍聴希望の方は、いらっしゃいますか。		
事務局	本日、19人の方が傍聴を希望されています。資料、座席に余裕はありますので、全員の方に入らせていただいでよろしいでしょうか。		
泉会長	どうぞ、入ってもらってください。 (傍聴希望者入場)		
泉会長	議事に入る前に本日の資料について、事務局からお願いします。		
事務局	(傍聴についての注意点、資料の確認)		
泉会長	それでは、議事に入ります。案件「1 ニーズ調査について」事務局から説明をお願いします。		
事務局	(アンケート調査票を説明)		
泉会長	お手元にある調査票は、審議会での議論に基づいて、最終的に事務局が修正したものです。私が修正をお願いしたところは、就学前児童の保護者を対象とするアンケート調査票の1ページ目にある「用語の定義」の中の幼稚園に関する記載についてです。3歳～5歳児に対して <u>学校教育</u> を行う施設」とありましたが、学校教育という表現が分かりづらく、教育基本法や学校教育法では、幼児期に対して学校教育とは表現されていませんので、「 <u>幼児教育</u> を行う施設」と変更をしました。内容については、かなりの設問が削除されています。それでもかなりのボリュームがありますので、どのくらい戻ってくるか心配ですが、多くの回答が戻ってくることを期待したいと思います。昨日、配布されたということです。調査票について、何かご意見はありますか。		
各委員	(意見なし)		
泉会長	それでは、案件1に関してはこれで終わります。次に案件「2 地域子ども・子育て支援事業の概要について」事務局から説明をお願いします。		
事務局	(資料1を説明)		
泉会長	何かご質問はありますか。		
委員	13番目の事業について検討中ということですが、吹田市として何か考えがあるということ		

事務局	<p>しょうか。</p> <p>子ども・子育て支援法で地域子ども・子育て支援事業の中に盛り込むことは明文化されていますが、具体的な内容については、国の子ども・子育て会議でも示されていない状況です。</p>
委員	<p>私も1番目と12番目と13番目の内容が気になりました。1番目は横浜市での「コンシェルジュ」のイメージがありますが、吹田市では何か構想がありますか。12番目は全く想像ができません。何か例として教えてください。13番目は企業が入るということでしょうか。これらを国が盛り込んだとしても吹田市で検討し、違った形にできるのかも、分かる範囲で教えてください。</p>
事務局	<p>1番目について、横浜市の「コンシェルジュ」がモデルになるだろうと思います。新制度では幼児期の教育・保育を市が一元的に取り扱うこととなります。その中でニーズの合ったサービスを受けていただくように調整していくことになると思います。細かな点はまだ示されていませんが、それが分かり次第、具体的に本市としてどうするかを考えていきます。</p> <p>12番目については、あくまでも推測になりますが、介護保険制度において、居住費や食費の自己負担分を低所得者に対して給付するという「補足給付」というものがあります。保育に付随する本人負担分を給付するという概念だと思われれます。国がどこまでの範囲を示すのかを注視していきたいと思います。</p> <p>13番目についても、どのサービスについてどのような主体が参入するかはよく分かりません。認可外保育所については、すでに株式会社が参入していますが、その範囲内のことかどうか分かりません。これについては、本市としても慎重に考えていきたいと思っています。</p>
泉会長	<p>資料1は国の示す内容を紹介したもので、まだ決まっていない部分があります。きちんと示されてから、吹田市として独自にどう事業を展開していくかを検討していく、ということになると思います。</p> <p>それでは、次に案件「3 次世代育成支援行動計画(後期計画)の実施状況等について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(資料2を説明)
泉会長	<p>次世代育成支援行動計画(後期計画)の中で、今後立てる計画と関係する指標を示していますが、何かご質問はありますか。</p>
委員	<p>12ページの留守家庭児童育成室の状況について、3月1日現在とありますが、この時期は、年間を通じて一番在籍児童数が少ない時期です。4月から児童が在籍しますが、年度中に退室する児童もいますので、必ずしも平成24年度が減少していると捉えることはできません。平成16年度から見ると、1.1倍伸びているという状況もありますので、この数字だけでは一概に実態は見えないと思います。</p> <p>また、定員に対しての利用者数でも、これは総数であって、細かくみると地域によって違いがあります。この数字だけでは分からない現状があることを認識して欲しいです。</p>
委員	<p>16ページの育児支援家庭訪問事業の「施策・事業の実施状況及び状況による効果(平成24年度)」において、「他の関係機関による訪問と並行」とありますが、どのような内容なのか教えてください。</p>
事務局	<p>育児支援家庭訪問事業について、現在、19名の育児支援家庭訪問員が登録しています。他の機関との並行した訪問については、例えば、家庭児童相談員や子ども家庭センターのケースワーカーと一緒に訪問する等の対応をしています。</p>

委員 事務局	<p>19名で367件は多いですね。1日に1件は訪問しているということでしょうか。</p> <p>新規のケースは、最初は週に1回訪問します。徐々に2週間に1回、月に1回と状況に応じて訪問する回数を変更しています。</p>
委員 事務局	<p>登録している方に何か資格は必要ですか。</p> <p>登録している方は、保育士や幼稚園教諭の資格をお持ちの方、大阪府で行われた子ども家庭サポーター養成講座を受けた方としています。</p>
委員 事務局	<p>7ページの育児教室の組数は延べでしょうか、実数でしょうか。吹田市では出生数が年間約3,200人で、平成24年度の0歳児の参加組数1,364組が実数となると、かなりの割合で育児教室を利用しているということになると思います。</p> <p>延べ組数ではなく、申込みされた組数になります。申込みされた方は数回の育児教室に参加されています。</p>
委員 事務局	<p>障がい児保育について、希望する方は全て受け入れができていますでしょうか。</p> <p>はい、できています。</p>
委員 事務局	<p>障がい児保育について、以前に公立の入所児童数と私立の入所児童数の差が課題であるとありましたが、民営化という話がある中で、今は全て受け入れているとのことですが、このままだと将来、障がい児保育の受け入れができるかどうか心配です。「今後の課題及び改善点」で、「障がい児保育事業については、受け入れ態勢づくりが課題です。」とありますが、他のか所では、「検討、行います。」や「進めていきます。」となっています。「課題です」を毎年繰り返すのか、また、何かアイデアがあるのでしょうか。</p> <p>ご指摘があった点について、私立にも協力してもらいながら障がい児保育を実施しています。現在、公立保育所で平均約7名の障がい児を受け入れているのに対し、私立保育所では平均1.6名だったと記憶しています。受け入れ時の運営補助の見直しを検討しています。運用面でも、経験のある保育士が巡回して相談できるような事業について、予算要求しています。この二つを柱として、障がい児保育の拡充を行いたいと思います。</p>
委員 事務局	<p>一概に障がい児保育といっても、いろいろな障がいによって対応は変わっていくと思います。医療行為が必要な障がい児の場合では、保育士、幼稚園教諭、小学校教員が関われない医療行為を行わなければなりません。肢体不自由、寝たきり、発達障がい、視覚障がい、聴覚障がい、医療行為が必要な重い障がいの場合は看護師が配属されないと対応できません。障がい児保育と一概に言われてもイメージができませんので、どのような障がいを対象にした障がい児保育なのかを教えてください。</p> <p>様々な障がいがある中で、医療行為が必要な障がい児には、看護師の配置が必要です。障がいといっても特定のものに限定していません。発達障がいやグレーゾーンで社会的な関係を持ちにくい子どもなども含めて、障がい児保育として受け入れています。現在、社会的な関係を持ちにくい子どもが増えており、健常児と一緒にいることで回復されていることから今後、受け入れを増やしていきたいと考えています。</p> <p>保育所には定員がありますが、条件の範囲内では定員外の受け入れを認めています。市立では定員外で受け入れを行っていますが、余裕がない状況です。</p> <p>また、障がい児保育という名称を来年度から発達支援保育に変更する予定です。名称を変えることで制度を使いやすくしようと考えています。</p>
委員	<p>障がい児とひとこと言っても程度の差があり、難しいケースやグレーゾーンといった子どもがいますが、子どもの育ちのためにある制度ですので、実りのあるものにしなければなら</p>

せん。制度を使うことで係りの先生がつくということになりますが、ただ人をつければ良いものではなく、状況に応じた適切な指導が必要になります。療育の知識が不足していることが多いです。巡回相談をされていますが、まだまだ不十分だと思います。仕組みの改正を一層取り組んでもらいたいと思います。私立幼稚園でも障がい児を受け入れています。実態としては制度が手薄なものになっています。

事務局

吹田市では療育を重要視しており、これを充実していかなくてはなりません。様々な手法で療育、障がいを持った子どもに対応していかなければならないと考えています。幼稚園がセーフティーネットのような役割を果たしているということもあり、保育所を含めて幼稚園も考えていかなくてはいけないと思います。

また、発達支援センターから個々の障がいの子どもたちの状況に応じて様々な療育を提供できるように、場所も含め、しっかりと位置付けることも必要だと思います。本市として、まだまだ弱い部分もありますので、もっと市が努力しないといけないと痛感しています。

委員

障がいのある子どもの発達を保障する仕組みを充実、受け入れをどう広げていくかが課題だと思います。危惧しているのがバンビ親子教室、杉の子学園の発達指導員について、常勤職員が定年退職した後の補充がされていないという状況があります。吹田市の正規職員の採用凍結の中で、バンビは正規職員が1名しかいません。長い目で子どもの発達状況を見ていくことは大事だと思いますので、来年度凍結で再来年度もどうなるかわかりませんが、補充が必要だと思います。

また、先ほどの「グレーゾーン」という言い方についてどうなのかと思います。巷では最近使われていますが、子どもには使用していません。私の子どもも障がい児保育を利用しており、親でもありますので、そのような言葉が公の会議で飛び交うことはいかがなものかと思います。「今後の課題及び改善点」でも「一般児童の人間形成にも役立つ」という表記も、本来子どもの発達を保障するものなのに、障がい児がいることで他の子どもの役に立っているという言い方は、感覚的にいかがなものかと感じます。障がいの受容というのは親にとって大きな課題ですので、配慮が必要だと思います。

事務局

「グレーゾーン」という言葉の使い方については、お詫び申し上げます。障がい児を持つ保護者の方に不快な思いをさせないよう、発言に留意すべきです。

療育基本構想を作成した時には、5,000人の子どもに対して2%が障がいを持っている子どもだという想定でしたが、現在は、3,000人の子どもに対して5%が障がいを持っているということで、子どもの数は減っているものの、割合が増えています。当時と状況は変わっていますので、体制の見直しが必要だと思っています。平成27年度中にわかたけ園を杉の子学園と同じ敷地に移転をして1つの発達支援センターとする予定です。杉の子学園は定員60人のところを70人受け入れています。わかたけ園の移転で柔軟に対応できるのではないかと考えています。親子教室においても発達障がいの子どもが増えていますので、見直しをしています。発達指導員の補充については、好ましくない状況と認識していますが、市の方針等がありますので、頭を悩ませているというのが本音です。

泉会長

今まで、保育園、幼稚園、市立、私立等で管轄が違って、進めづらいことがあったかと思いますが、すべての子どもを主とした体制、子どもにとってどこにいても幸せに育つシステムが必要だと思います。

委員

吹田市は他市と比べて高齢者支援、障がい者支援、子育て支援が充実していると感じています。LD、自閉症、アスペルガー症候群、ADHDなどの発達障がいにも限定しても、文部

科学省が10年前に発表した時には6.3%、現在は6.6%と増えています。これに発達障がい以外の障がいを加えると1割近い人たちがいるということで、今後、療育や子ども発達支援等がますます重要になると思います。

泉会長

吹田市独自で地域子ども達をどのように育てるか、足元をみてしっかりと検討していくことが重要だと思います。

委員

保育士が不足しています。子育て専門職としての保育士が育たなければ、いくら良い仕組みができたとしても、現場で実行が難しくなります。我々も保育士の処遇を改善しながら、子ども・子育てに携わっていきたいと思います。

泉会長

他市のモデルとなる自治体を目指して頑張ってくださいと思います。それでは「4 その他」についてよろしくをお願いします。

事務局

次回、第4回子ども・子育て支援審議会の日程について、2月13日(木)、今日と同じこの場所、同じ時間帯で開催したいと思います。内容につきましては、ニーズ調査の結果、教育・保育の提供区域の設定、幼児期の教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、を案件に考えています。

泉会長

これにて、本日の審議会を終了します。ありがとうございました。